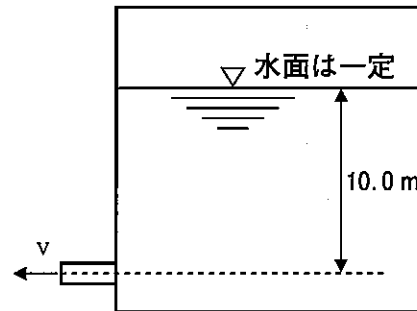


問題 1 図に示す開放型水槽の水面下 10.0 m の側面に取り付けられた吐出口から出る水の流速 v として、最も適当な値は次のうちどれか。ただし、重力加速度を 9.8 m/s^2 とする。

- (1) $v = 9.8 \text{ m/s}$
- (2) $v = 14.0 \text{ m/s}$
- (3) $v = 19.6 \text{ m/s}$
- (4) $v = 28.0 \text{ m/s}$



問題 2 換気に関する次の記述のうち、最も不適当なものはどれか。

- (1) 換気の目的は、室内で発生する粉じんや熱、湿気等を希釈または除去し、室内環境の基準を達成することである。
- (2) 室内に居る人に酸素を供給することも換気のものである。
- (3) 第2種換気は、給気・排気をとともに調節することで、室内の圧力を任意に設定することが可能である。
- (4) 第3種換気は、給気は自然流入だが、排気はファンを設け、室内を負圧に保つ。

問題 3 BOD に関する次の記述のうち、最も不適当なものはどれか。

- (1) BOD は、主として水中の有機物質が好気性微生物の増殖あるいは呼吸作用により酸化される際に消費する酸素量で示される。
- (2) 生活排水に含まれる BOD の除去には、生物学的処理法が適用される。
- (3) 未処理生活排水の BOD は、一般に COD よりも低い。
- (4) n -ヘキサン抽出物質を多く含む生活排水は、一般に BOD も高い。

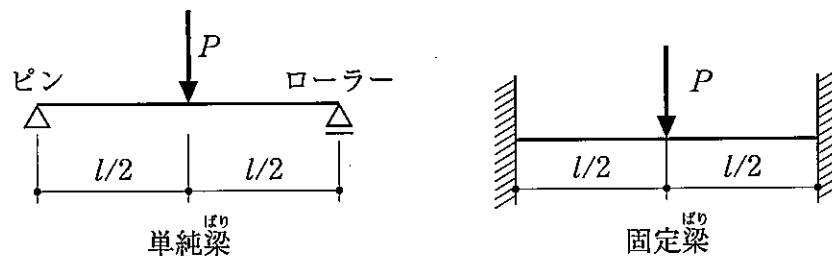
問題 4 浄化槽に適用されている膜分離技術に関する次の記述のうち、最も不適当なものはどれか。

- (1) 精密濾過膜は、クリプトスポリジウム汚染対策に効果がある。
- (2) 同一の原水を対象とした場合、接触ばっ気法よりも COD 除去性能が低い。
- (3) 浄化槽には、平膜、中空糸膜が採用されている。
- (4) 処理水は、便器洗浄用水として利用できる。

問題 5 三相誘導電動機に関する次の記述のうち、最も不適当なものはどれか。

- (1) 電動機が同一の場合、回転速度は 50 Hz 地区よりも 60 Hz 地区の方が速くなる。
- (2) 巻線形電動機は、かご形電動機に比べ構造が簡単である。
- (3) 三相の電源線のうち 2 本の線の接続を入れ替えると、回転方向が逆になる。
- (4) スターデルタ始動による電動機の始動電流は、直入始動の約 $\frac{1}{3}$ である。

問題 6 図に示す集中荷重 P を受ける単純梁と固定梁に関する次の記述のうち、最も不適当なものはどれか。



- (1) 梁に生じる最大せん断力は、単純梁と固定梁は同じである。
- (2) 単純梁の回転端(ピン)は、垂直反力及び水平反力を負担できるが、曲げモーメントは負担できない。
- (3) 固定梁の固定端は、垂直反力、水平反力及び曲げモーメントを負担できる。
- (4) 梁に生じる最大曲げモーメントは、単純梁より固定梁の方が大きい。

問題 7 鉄筋コンクリートに関する次の記述のうち、最も不適当なものはどれか。

- (1) アルカリ骨材反応は、コンクリートが表面で接する空気中の炭酸ガスと反応してアルカリ性を失っていく現象である。
- (2) 単位水量は、過大になると乾燥収縮ひび割れなどを誘発するため、上限値を定めている。
- (3) 単位セメント量は、過少になると施工上の欠陥が発生しやすいため、下限値を定めている。
- (4) コールドジョイントは、先に打込まれたコンクリートと後から打込まれたコンクリートが十分に一体化されずにできた打継ぎ目である。

問題 8 「公共工事標準請負契約約款」に関する次の記述のうち、誤っているものはどれか。

- (1) 受注者は、工事を一括して第三者に請け負わせることが禁止されている。ただし、発注者の承認を得た場合、これは可能である。
- (2) 発注者は、監督員を置いたとき、その氏名を受注者に通知しなければならない。
- (3) 発注者が監督員を置かないとき、約款に定める監督員の権限は、発注者に帰属することになる。
- (4) 現場代理人は、契約の履行に関し、工事現場に常駐し、その運営、取締りを行うこととされている。

問題 9 活性汚泥法と比較した生物膜法の特徴として、最も不適当なものは次のうちどれか。

- (1) 生物相が多様性に富んでいる。
- (2) 汚泥返送を必要としない。
- (3) 低濃度の汚水処理にも有効である。
- (4) 接触材に付着した微生物の量を任意に調整できる。

問題 10 水質汚濁物質とその除去技術の組み合わせとして、最も不適當なものは次のうちどれか。

[水質汚濁物質]	[除去技術]
(1) 色度成分	活性炭吸着法
(2) 浮遊物質	砂濾過法
(3) 有機物質	活性汚泥法
(4) 窒素	オゾン処理法

問題 11 塩素消毒に関する次の記述のうち、最も不適當なものはどれか。

- (1) 塩素消毒の目的は、病原性の微生物を殺滅することである。
- (2) 塩素注入量が同じ場合、処理水の pH が低いほど、消毒効果は高くなる。
- (3) 遊離残留塩素は、塩素と水中のアンモニアが反応して生じたものである。
- (4) 固形の消毒剤として、次亜塩素酸カルシウムや塩素化イソシアヌル酸などが用いられる。

問題 12 含水率 98.0 % の余剰汚泥 10.0 m³ を濃縮して含水率 95.0 % としたときの汚泥量として、最も適當な値は次のうちどれか。

- (1) 2.0 m³
- (2) 2.5 m³
- (3) 4.0 m³
- (4) 5.0 m³

問題 13 処理対象人員 10 人以下の規模の性能評価型浄化槽に関する次の記述のうち、誤っているものすべてをあげている組み合わせはどれか。

この性能評価型浄化槽には、**a. SS 除去性能**、**b. 窒素除去性能**、**c. トリハロメタン除去性能** を有するもの、および **d. 小容量** なものが多数認定されている。

これらの二次処理には、従来の接触ばっ気法のほか、**e. 生物濾過法**、**f. 担体流動法**、**g. 膜分離活性汚泥法**、**h. 回分式活性汚泥法**、**i. オキシデーショ^ン・ディッチ法** などが採用されている。

- (1) a c d
- (2) b e f
- (3) c h i
- (4) b d g

問題 14 生物学的硝化脱窒法における窒素化合物の変化の過程として、最も適当なものは次のうちどれか。

- (1) アンモニア性窒素 → 亜硝酸性窒素 → 硝酸性窒素 → 窒素ガス
- (2) 亜硝酸性窒素 → アンモニア性窒素 → 硝酸性窒素 → 窒素ガス
- (3) 硝酸性窒素 → 亜硝酸性窒素 → アンモニア性窒素 → 窒素ガス
- (4) 硝酸性窒素 → アンモニア性窒素 → 亜硝酸性窒素 → 窒素ガス

問題 15 構造基準(建設省告示第 1292 号、最終改正 平成 18 年 1 月国土交通省告示第 154 号に定める構造方法)の第 1 第四号の「一般構造」に関する次の文章中の 内の語句のうち、最も不適当なものはどれか。

浄化槽は汚水処理を行う性質上、耐水材料を用いて水密構造としなければならない。浄化槽本体の耐水材料としては、FRP((1) ガラス繊維強化プラスチック)、(2) 塩化ビニル、鉄筋コンクリート、(3) プレキャスト鉄筋コンクリート等が使われている。FRPや(2) 塩化ビニルなどは水密性がある材料であるが、鉄筋コンクリートのように水密性に劣る材料で浄化槽を作った場合は、(4) 防水モルタルや防水樹脂を用いて槽内部などの表面処理を行う。

問題 16 処理対象人員 600 人、1 人 1 日当りの汚水量 200 L、汚水の排出時間 24 時間の施設におけるピーク係数(時間最大汚水量/時間平均汚水量)が 3 である。この施設における流量調整槽での流量調整比を 1 とする場合、時間最大汚水量($m^3/時$)と汚水移送水量($m^3/時$)の組み合わせとして、正しいものは次のうちどれか。

	[時間最大汚水量]	[汚水移送水量]
(1)	15($m^3/時$)	5($m^3/時$)
(2)	15($m^3/時$)	10($m^3/時$)
(3)	30($m^3/時$)	5($m^3/時$)
(4)	30($m^3/時$)	10($m^3/時$)

問題 17 構造基準(建設省告示第 1292 号、最終改正 平成 18 年 1 月国土交通省告示第 154 号に定める構造方法)の第 1 に示されている嫌気濾床槽に関する次の記述のうち、不適当なものはいくつあるか。

- (ア) 2 室に区分する場合、第 1 室よりも第 2 室の容量は大きい。
- (イ) 濾材の SS 捕捉性が弱い場合、第 1 室の濾材を充填する位置を比較的浅くする。
- (ウ) 濾材の充填率は、第 1 室がおおむね 40 %、第 2 室以降がおおむね 60 % である。

- (1) 0 個
- (2) 1 個
- (3) 2 個
- (4) 3 個

問題 18 長時間ばっ気方式のばっ気槽を構成する付帯設備として、最も不適当なものは次のうちどれか。

- (1) 移流管
- (2) 散気装置
- (3) 消泡装置
- (4) 汚泥引抜管

問題 19 担体流動方式に関する次の記述のうち、最も不適当なものはどれか。

- (1) 担体に付着した微生物による生物酸化を行う生物膜法の一つである。
- (2) 担体同士が衝突して生物膜の肥厚が抑制されるため、逆洗やはく離汚泥の移送を行う必要がない。
- (3) 担体を流動させるため、散気装置や循環装置などを担体流動槽内に設ける。
- (4) 沈殿槽に移流した担体を担体流動槽に返送するためのエアリフトポンプを設ける。

問題 20 JIS A 3302(2000)に規定する浄化槽の処理対象人員の算定に関して、建築用途と算定単位との組み合わせのうち、正しいものは次のうちどれか。

〔建築用途〕	〔算定単位〕
(1) 老人ホーム・養護施設	延べ面積
(2) 駅・バスターミナル	総便器数
(3) 工場・作業所	定員
(4) ホテル・旅館	客室数

問題 21 一般に浄化槽に流入させても処理性能に支障の生じない排水として、最も適当なものは次のうちどれか。

- (1) 大学・各種学校における化学実験排水
- (2) 病院・療養所における洗濯排水
- (3) 食肉市場における食肉加工排水
- (4) ホテル・旅館における温泉排水

問題 22 処理対象人員 2,000 人の浄化槽の計画・設計において、処理方式の選定に関する次の記述のうち、最も不適当なものはどれか。

- (1) 動力費が節約できる処理法としては、回転板接触方式が有効である。
- (2) 汚泥発生量の少ない処理法としては、標準活性汚泥方式が有利である。
- (3) 臭気発生が少ない方法としては、強制通気する長時間ばっ気方式や接触ばっ気方式が有効である。
- (4) 設置面積が狭い敷地には、コンパクト化が図れる膜分離活性汚泥法が有利である。

問題 23 水量が $100\text{ m}^3/\text{日}$ で BOD 130 mg/L 、T-N 60 mg/L の流入汚水に対し、BOD 10 mg/L 、T-N 10 mg/L の放流水質が求められている硝化液循環活性汚泥方式の浄化槽がある。除去 BOD/除去 T-N 比が 3 となるのに不足する BOD 量として正しい値は次のうちどれか。

- (1) 3 kg/日
- (2) 4 kg/日
- (3) 5 kg/日
- (4) 6 kg/日

問題 24 流量調整槽の保守点検に関する次の文章中の、 内に当てはまる語句の組み合わせとして、最も適当なものは次のうちどれか。

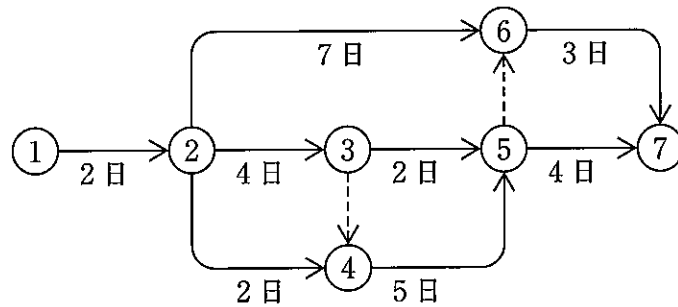
流量調整槽では、汚水をばっ気^{かくはん}攪拌することにより均質化と A を図る。ここでは、適切に均等移流できるように B の作動状況を点検する。さらに、攪拌装置^{かくはん}の稼働状況や異常な C の形跡などがいないか確認する。

- | | [A] | | [B] | | [C] |
|-----|------|----|----------|----|------|
| (1) | 可溶化 | —— | 循環ポンプ | —— | 水温上昇 |
| (2) | 可溶化 | —— | 水位警報装置 | —— | 水位上昇 |
| (3) | 腐敗防止 | —— | 計量調整移送装置 | —— | 水温上昇 |
| (4) | 腐敗防止 | —— | 移送ポンプ | —— | 水位上昇 |

問題 25 施工計画に関する次の記述のうち、最も不適当なものはどれか。

- (1) 資材計画の目的は、設計仕様に適合した資材を、必要な時期・数量・場所に低価格で供給することである。
- (2) 仮設計画を立てる時は、安全管理、作業騒音対策、火災予防、盗難防止などに配慮する必要がある。
- (3) 労務計画は、工程に合わせた経済的な稼働人員を確保することであり、作業員の能力などを把握した上で立てる必要がある。
- (4) 実行予算書は、入札時の見積の基本資料とするために、施工計画を予測して作成する。

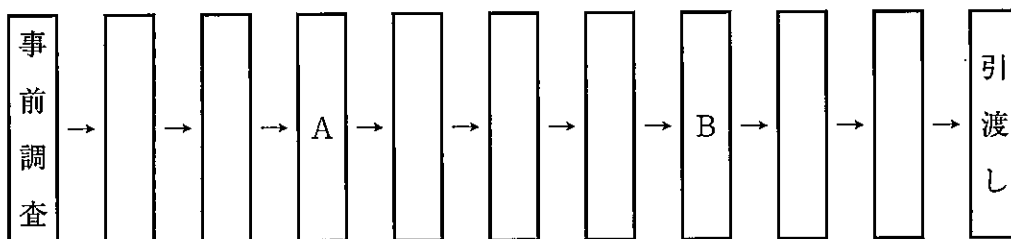
問題 26 図のネットワーク工程表におけるクリティカルパスとして、正しいものは次のうちどれか。



- (1) ① → ② → ③ → ④ → ⑤ → ⑥ → ⑦
- (2) ① → ② → ③ → ④ → ⑤ → ⑦
- (3) ① → ② → ④ → ⑤ → ⑦
- (4) ① → ② → ⑥ → ⑦

問題 27 下欄に示す現場施工浄化槽の工事内容を一般的な工事手順に並べたとき、図のA及びBに当てはまる組み合わせとして、最も適当なものは次のうちどれか。

後片づけ、埋め戻し工事、仮設工事、基礎工事、掘削工事、躯体工事、
試運転、内部設備工事、水張り



- | | | |
|----------|-------|--------|
| 〔A〕 | | 〔B〕 |
| (1) 基礎工事 | ————— | 埋め戻し工事 |
| (2) 基礎工事 | ————— | 内部設備工事 |
| (3) 躯体工事 | ————— | 埋め戻し工事 |
| (4) 躯体工事 | ————— | 内部設備工事 |

問題 28 品質管理を進めていくためのデータ整理の手法として、最も不適当なものは次のうちどれか。

- (1) ヒストグラム
- (2) パレート図
- (3) バーチャート
- (4) チェックシート

問題 29 工事現場における通路等に関する次の記述のうち、労働安全衛生法にてらして、誤っているものはどれか。

- (1) 架設通路のこう配が15度をこえるものには、踏さんその他の滑止めを設ける。
- (2) 建設工事に使用する高さ8m以上の登りさん橋には、7m以内ごとに踊場を設ける。
- (3) 墜落の危険のある箇所には、高さ70cm以上の手すりを設ける。
- (4) 屋内に設ける通路には、通路面から高さ1.8m以内に障害物を置かない。

問題 30 工事現場内における移動式クレーンに関する次の記述のうち、労働安全衛生法にてらして、誤っているものはどれか。

- (1) つり上げ荷重が1トン以上の移動式クレーンの運転業務は、事業者による安全のための特別の教育を受けた者でなければならない。
- (2) つり上げ荷重が3トン以上の移動式クレーンは、明細書に記載されているジブの傾斜角の範囲をこえて使用してはならない。
- (3) 移動式クレーンを用いて作業を行うときは、運転者及び玉掛けをする者が当該クレーンの定格荷重を常時知ることができるよう、表示その他の措置を講じなければならない。
- (4) 移動式クレーンを用いて作業を行うときは、当該クレーンの検査証を備え付けておかなければならない。

問題 31 山留め工事に関する次の記述のうち、最も不適当なものはどれか。

- (1) 鋼矢板の根入れ深さは、鋼矢板の長さの $\frac{1}{3}$ 以上とする。
- (2) 山留め支保工の確認は、7日以内ごとに行う。
- (3) 切り梁は、曲げ応力を持たせる構造とする。
- (4) 鋼矢板壁は、止水性のある山留め壁である。

問題 32 土工事に関する次の記述のうち、最も不適当なものはどれか。

- (1) ウェルポイント排水工法は、重力排水法的一种である。
- (2) 釜場排水工法は、湧水を釜場に集めて、ポンプで排水する方法である。
- (3) ヒービングの防止には、予定掘削深さより矢板の根入れを深くすることが有効である。
- (4) 釜場排水工法は、透水性の良い安定した地盤に適している。

問題 33 コンクリートに関する次の記述のうち、最も不適当なものはどれか。

- (1) 水セメント比は、数値が小さくなるとコンクリート強度が高くなる。
- (2) スランプは、数値が小さくなるとコンクリートの打設が容易になる。
- (3) 底版コンクリートの型枠存置日数は、普通ポルトランドセメントで当該期間の平均気温が15℃以上の場合、3日以上である。
- (4) コンクリートは、圧縮強さが大きく、引張強さが小さい。

問題 34 浮上防止のための工事に関する次の記述のうち、最も不適当なものはどれか。

- (1) 浮上防止の計算には、上部スラブコンクリートの荷重のみを浮力に抵抗する力とする。
- (2) 浮上防止金具を底版コンクリートに埋め込む方法には、鉄筋にフックを設ける方法や金具を鉄筋に緊結する方法がある。
- (3) 箱型浄化槽(上槽と下槽の成形品をフランジで結合したもの)の浮上防止には、本体フランジと底版コンクリートを連結して固定する方法もある。
- (4) 円筒横置き型浄化槽では、浮上防止バンドで本体を固定する方法がある。

問題 35 排水処理施設の汚水量を計測する流量計のうち、水中の固形物の影響が最も大きいものは次のうちどれか。

- (1) 電磁式
- (2) 羽根車式
- (3) せき式
- (4) 超音波式

問題 36 浄化槽の処理工程と必要とする内部設備の組み合わせのうち、最も不適當なものは次のうちどれか。

- | 〔処理工程〕 | 〔内部設備〕 |
|-----------|--------------|
| (1) ばっ気槽 | 逆洗装置 |
| (2) 凝集槽 | pH 調整装置 |
| (3) 硝化槽 | DO 計 |
| (4) 汚泥貯留槽 | かくはん
攪拌装置 |

問題 37 ホッパー型の沈殿槽の施工に関する次の記述のうち、最も不適當なものはどれか。

- (1) ホッパー面は、汚泥の堆積を防ぐため、平滑に仕上げる。
- (2) 底部の平坦部は、汚泥が残らないよう、円形または正方形とする。
- (3) 流入管は、流入水が均一な上向流となるよう、センターウェルに接続する。
- (4) Vノッチ式の越流せきの場合、一様な越流とするため、ノッチの間隔を大きくする。

問題 38 排水トラップに関する次の記述のうち、最も不適當なものはどれか。

- (1) 通気管は、トラップの水封を保護するのに有効である。
- (2) 二重トラップは、2つのトラップ間に空気溜りが生じ、流水機能を阻害する。
- (3) Pトラップは、Sトラップと比較して水封が破られやすい。
- (4) トラップは、臭気及び衛生害虫の移動阻止に有効である。

問題 39 排水管に関する次の記述のうち、最も不適当なものはどれか。

- (1) 直径 100 mm の排水管は、10 m ごとに^{ます}升を設けた。
- (2) インバート^{ます}の上流側と下流側の管底差は、2 cm とした。
- (3) トラップ^{ます}升の封水深さは、15 cm とした。
- (4) インバートの^{のり}法肩は、配管天端よりやや低くした。

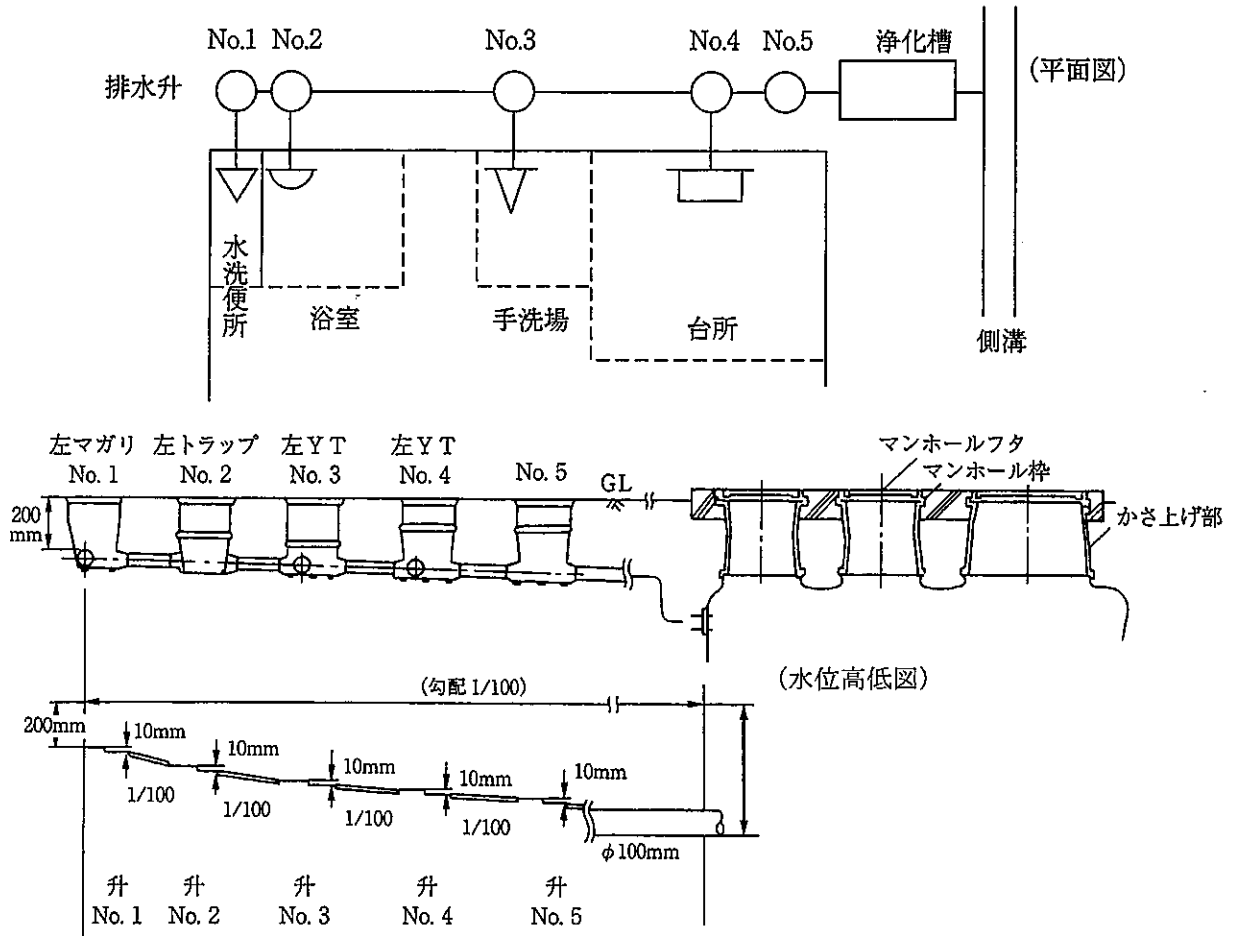
問題 40 電気配管配線の施工に関する次の記述のうち、最も不適当なものはどれか。

- (1) 金属管とボックスは、アースボンド線を用いて電氣的に接続した。
- (2) 合成樹脂製可とう電線管(CD 管)は、露出配管で使用した。
- (3) 金属管配線とケーブル配線は、ボックスを使用して接続した。
- (4) 同一回路の電源用配線は、同一金属管内に施設した。

問題 41 浄化槽の試運転及び検査に関する次の記述のうち、最も不適当なものはどれか。

- (1) 総合試運転を行う前に、機器単体ごとの確認運転を行う。
- (2) 電気設備の接地抵抗測定は、晴天の日が続き、土が乾燥している時に行う。
- (3) 槽内に水を満たし、内部設備、ブロワ、ポンプ等の稼働状況の確認及び調整を行う。
- (4) 2 台設置されている放流ポンプは、異常高水位のときに自動交互運転となるように調整を行う。

問題 42 下に示す平面図、水位高低図において、No.1の^{ます}から浄化槽の流入管までは13mである。GLから浄化槽の流入管底までの深さとして、最も近い値は次のうちどれか。ただし、^{ます}の幅は200mm、^{ます}内の落差は10mm、管径は100mmとする。



- (1) 370 mm
- (2) 400 mm
- (3) 430 mm
- (4) 470 mm

問題 43 工事が完了した工場生産浄化槽(嫌気濾床・担体流動生物濾過方式の窒素除去型)の試運転調整において確認すべき項目、内容に関する次の記述のうち、最も不適当なものはどれか。なお、嫌気濾床槽流出部に流量調整装置が設置され、循環が処理水槽から嫌気濾床槽へ行われる。また、計画流入汚水量を1Qとする。

- (1) 水位変動に伴う流量調整装置の稼働状況の確認と移流量を1Qに調整
- (2) ばっ気攪拌状況の確認
- (3) 嫌気濾床槽への循環水量を3Q程度に調整
- (4) 逆洗装置の稼働状況の確認と自動運転タイマの設定

問題 44 浄化槽法に関する次の記述のうち、誤っているものはどれか。

- (1) 建設業法に規定する管工事業の許可を受けている者であっても、浄化槽工事業を営もうとする場合には、浄化槽工事業の登録を受けなければならない。
- (2) 浄化槽工事業者は、営業所及び浄化槽工事現場ごとに、氏名または名称、登録番号を記載した標識を掲げなければならない。
- (3) 浄化槽設備士は、その職務を行うときは浄化槽設備士証を携帯しなければならない。
- (4) 浄化槽工事業者は、営業所ごとに浄化槽設備士の氏名等を記載した帳簿を備えなければならない。

問題 45 浄化槽法に規定されている型式認定に関する次の記述のうち、誤っているものはどれか。

- (1) 型式認定は、一定の期間ごとに更新を受けなければならない。
- (2) 浄化槽を工場において製造しようとする者は、製造しようとする浄化槽の型式ごとに、国土交通大臣の認定を受けなければならない。
- (3) 浄化槽を工場において製造しようとする者は、試験的に製造する場合であっても型式認定を受けなければならない。
- (4) 本邦に輸出される浄化槽を外国の工場で製造しようとする者は、型式認定を受けることができる。

問題 46 建設業法に関する次の記述のうち、誤っているものはどれか。

- (1) 管工事業の許可を受けている建設業者は、管工事に附帯する電気工事を請け負うことができる。
- (2) 営業所に置く専任技術者は、近隣工事であっても、専任を要する現場の主任技術者になることができない。
- (3) 請負金額が500万円以上の浄化槽工事は、建設業の許可が必要な工事である。
- (4) 下請負人として軽微な管工事を施工する建設業者は、主任技術者を置かなくてもよい。

問題 47 次の記述のうち、建築基準法にてらして、誤っているものはどれか。

- (1) 配管設備の末端は、公共下水道、都市下水路その他の排水施設に排水上有効に連結しなければならない。
- (2) コンクリートへの埋設等により腐食するおそれのある配管設備は、その材質に応じて有効な腐食防止のための措置を講じなければならない。
- (3) 汚水に接する部分の配管設備は、不浸透質の耐水材料で造らなければならない。
- (4) 屎尿浄化槽の平屋建の附属機械室に設ける換気設備の風道は、不燃材料で造らなければならない。

問題 48 次の文中、 内に当てはまる語句の組み合わせとして、建築基準法にてらして、正しいものはどれか。

建築主は、確認申請を受けた建築物の工事が完了したときは、工事が完了した日から A 日以内に、 B に到達するよう検査の申請をしなければならない。
但し、国土交通大臣の指定を受けた者による完了検査を受けた場合、並びに災害等やむを得ない事由の場合を除く。

- | | [A] | [B] |
|-----|-----|--------|
| (1) | 4 | 建築主事 |
| (2) | 4 | 都道府県知事 |
| (3) | 7 | 建築主事 |
| (4) | 7 | 都道府県知事 |

問題 49 下水道法に関する次の記述のうち、誤っているものはどれか。

- (1) 公共下水道は、主として市町村が管理するもので、終末処理場を有するもの又は流域下水道に接続するものである。
- (2) 処理区域内においては、建築物の有無にかかわらず、土地の所有者が排水設備を速やかに設置しなければならない。
- (3) 下水道を使用する者は、下水道施設の機能を妨げ、又は損傷するおそれのある下水を排除する場合、条例に従い、除害施設を設けるなど必要な措置をとらなければならない。
- (4) 処理区域内においてくみ取便所が設けられている建築物の所有者は、下水の処理の開始が公示されてから3年以内に水洗便所(污水管が公共下水道に連結されたものに限る。)に改造しなければならない。

問題 50 次の記述のうち、建設工事に係る資材の再資源化等に関する法律にてらして、誤っているものはどれか。

- (1) 建築物の新築工事に伴い副次的に生ずる建設資材廃棄物を分別する行為も、分別解体に含まれる。
- (2) 建設資材廃棄物を熱を得ることに利用することができる状態にする行為も、再資源化に含まれる。
- (3) プラスチックは、再資源化することが義務付けられる特定建設資材である。
- (4) 特定建設資材を用いた建築物の解体工事であって、その規模が一定以上の受注者は、正当な理由がある場合を除き、分別解体等をしなければならない。